

1 家庭科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 2年間を見通した指導計画の作成

- ① 家庭科で育てたい児童の姿を明確にする。
- ② 2年間の大まかな指導の流れ（ストーリー）を考えて題材を配列する。
 - ・ 段階的な題材の配列・・・B(3)「調理の基礎」、C(3)「生活に役立つ物の製作」は平易なものから段階的に扱う。
- ③ 指導内容の関連を図って題材を構成する。
 - ・ A(1)のアは、ガイダンスとして扱い、その他にA～Dの内容と関連を図って扱う。
 - ・ DはA・B・Cの内容と関連を図る。
- ④ 各題材に適切な時間を配分する。
- ⑤ 指導すべき内容に漏れがないよう確認する。

(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の明確化

小・中の接続・・・小学校で指導することは何かを押さえる。

(3) 実践的・体験的な活動、問題解決的な学習の一層の重視、言語活動の充実

(4) 指導と評価の一体化

指導と評価の計画の作成をする。

A(1)のアの評価・・・2年間のどこで、どのように評価するかを押さえる。

(5) 家庭との連携

(6) 教育環境の整備

計画的な整備、安全の確保（熱源、用具、機械などの扱い方や用具の配置の仕方、食品等の安全で衛生的な取扱い）

- * 小学校での調理は生の肉は扱わない。総合的な学習等で調理をする場合においても、家庭科の指導要領解説を基にすること。

2 創意工夫する能力や実践的な態度を育てる指導方法と評価方法の工夫

(1) 家庭科の改訂のポイント

知識と技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育成すること。そのためには、学習した知識と技能を実際の生活で生かす場面を設定し、児童が習得した知識と技能を生活に活用できるような指導が必要。

⇒ 実生活と関連を図った問題解決的な学習を充実する

(2) 家庭科の目標

「～生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」には、実践する喜び、物を作る楽しさ、できるようになったという達成感を味わわせることが必要。

⇒ 問題解決的な学習過程で、自分自身の学びの状況を記録できる評価を取り入れる

- ・ 児童が自分自身の学びの状況を把握し、他の児童との学び合いを深めながら学習目標を実現できるよう自己評価や相互評価の時期や内容について検討する。
- ・ 学習の過程で創意工夫する能力について把握する評価方法や評価場面を工夫する。

(3) 題材の指導と評価の計画の作成

① 題材の指導計画の工夫

- ・ 製作や調理などの実習や、実験、調査など、適切な活動を設定する。

(実践的・体験的な活動の充実)

- ・ 自分の生活と結び付けて学習できるよう、問題解決的な学習を充実する。
 - ・ 言語活動を充実する。(詳細は3参照)
 - ・ 学習したことを活用する場面を設定する。(家庭での実践の計画など)
- ② 題材の評価計画の作成
- ・ 題材の評価規準
 - 題材の指導目標を明確にする。
 - 複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にする。
 - ・ 学習活動に即した評価規準
 - その時間のねらいや学習活動に照らして設定する。
 - 毎時間4観点について評価するのではなく、いずれかの観点に重点を置くなど、適切に設定する。

(4) 学習評価の工夫改善

- ① 評価方法の工夫改善
- ・ 様々な方法から、その場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択
児童の自己評価や相互評価を工夫する。
ワークシート等の記述内容から児童の資質や能力を多面的に把握できるよう工夫する。
- ② 評価時期等の工夫
- ・ 授業改善のための評価：日常的に行う。
 - ・ 児童の状況を記録するための評価：ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期に。
 - ・ 「関心・意欲・態度」の評価：ある程度長い区切りの中で適切な頻度で。
- ※ 指導と評価のPDCAサイクルの充実
実現状況をどのように把握し、それを次の授業にどのように生かして行くか、評価方法は適切かどうか等を実践を通して検証する。
- ※ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用

3 家庭科における言語活動の充実に関する取組のポイント

生活の中に様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする学習活動を充実する。(小学校学習指導要領解説 家庭編より)

- ① 実践的・体験的な活動の前後の言語活動を工夫する。
- ・ 観察する観点を明確にし、予想したり、自分の考えを持たせたりする。
 - ・ 感じ取ったことを自分の言葉でまとめたり、その結果について考察し、自分の生活と結び付けて考えたことを発表したりする。
- ② 考えた過程が分かるレポートの記入欄を工夫する。
- ③ 問題解決的な学習の各学習過程で、言葉や図表、概念などを用いて自分の考えを説明したり、表現したり、話し合ったりする活動を充実する。
- ・ 課題を意識して説明したり、表現したり、話し合ったりする。
- ※ 「言語活動の充実に関する指導事例集」の活用

4 参考となる資料等

- ・ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」:国立教育政策研究所
- ・ 「言語活動の充実に関する指導事例集」:文部科学省
- ・ 初等教育資料 学習評価 (平成23年2,4月号), 言語活動 (平成23年6,7月号), その他 (平成23年11月号, 平成24年4,6,7月号)